



1. 新型コロナウイルスについて

中国・湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルスによる肺炎の感染が拡大しています。当会では1月29日、本年度の米山奨学生に宛てた注意喚起をホームページに掲載するとともに、メールで同内容を配信し、正確な情報の確認と感染拡大を防ぐための注意を呼びかけました。また、旧正月を母国で過ごすためにすでに中国に一時帰国している奨学生や、今後の中国への出国届が出ている奨学生にも直接、あるいは世話クラブを通じて状況を確認しています。

「故郷の村の移動制限により動けない」、「日本へのフライトがキャンセルになり、いつ戻れるか見通しが立たない」など、現地で足止めされている奨学生からの報告も入っており、影響の長期化も懸念されます。2月13日には、湖北省に続いて、浙江省に滞在した外国人の入国拒否が始まるなど、本件をめぐる日本の状況も刻々と変化しています。当会では今後も情報収集に務め、地区と連携して、必要な対策を検討してまいります。

2. 上海米山学友会の支援活動と総会

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、上海米山学友会では会員から寄せられた義援金をもとに、相次いで支援活動を展開しています。まず1月25日には、N99型マスクを武漢協和病院へ寄贈。つづいて27日には、学友のついで協力者を得て、次亜塩素酸消毒薬1トンを湖北省の2つの施設へ寄贈しました。28日には、日本製医療用マスクを購入し、湖北省の3病院へ送りました。このほか、倉敷RCおよび徳島RCから支援の打診を受け、中国国内で現状不足している物資や、支援を待っている病院を紹介するなど、日本からの支援の橋渡しも行っています。



学友会名を記載した支援物資

上海を拠点とする学友たちにも新型コロナウイルス対策で仕事への影響が出ていますが、^{ジョウトウケン}焦徳思会長（2000-02/伊丹昆陽池RC）

は、「どんなに忙しくても対応します。日本のロータリアンからの温かい気持ちがありがたい」と、話しています。

また、同学友会は1月11日（土）に上海市内で総会を開催し、学友49人をはじめとする計63人が参加。日本からは、齋藤直美理事長と、第2750地区米山奨学委員長の澤田尚史氏ご夫妻が参加しました。総会では、2019年度の学友会活動や会員数、収支状況が報告され、学友会へ貢献した5人が表彰されました。



当会HPの「奨学生・学友の窓口」ログイン方法を変更

2020年1月20日から、米山奨学生・学友が自分の住所などを更新したり、各種申請を行うページ「奨学生・学友の窓口」にログインの際、従来の「奨学生 No.」に加え、本人が設定する「パスワード」が必要となりました。

3月に開催される海外米山学友会総会

◆ミャンマー◆ 2020年3月21日（土）16:30～19:30/会場：Sein Lan So Pyay Garden/
申込み：myanmargakuyu@gmail.com（締切2月15日）



3. 寄付金速報 — 1月の寄付は好調 —

1月までの寄付金は、前年同期と比べて1.4%減（普通寄付金:0.3%減、特別寄付金:2.0%減）、約1,500万円の減少となりました。また、直近5年間の同期平均額と比較すると約600万円の減少です。ただし、1月のみの単月寄付額は、直近5年間の平均よりも約400万円増加しており、下期のスタートは順調な滑

り出しとなりました。

1月は普通寄付金（クラブで決定した金額×会員数分をお送りいただく定期寄付）の下期分送金が主となり、1月末までに全クラブの75%にあたる1,694クラブからご納入いただきました。今後ともご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

4. ホームカミング制度で米山学友を招待

1月21日、第2770地区第8グループIM（ガバナー補佐：新井進氏）で、米山学友2人がホームカミング制度により来日し、感謝のスピーチをしました。2人はいずれも北京在住の嘉木揚凱朝（1995-97/名古屋大須RC）と呉海波さん（2005-06/越谷RC）です。

呉さんは、18年前に故郷・河南省の土を小さな袋に入れ、初めて一人で海を渡ったこと、世話クラブの越谷RCでは月に1回ではなく毎



週例会に出たこと、帰国後もカウンセラーが自分と連絡を取り続け、越谷R

Cの会員がずっと自分を覚えていてくれたことを涙ぐみながら述べました。

続く基調講演には、中国米山学友会華北分会会長を務める嘉木揚



さんが登壇。「米山学友会による国際交流への役割」と題し、奨学生時代に交流のあったロータリアンが家族として接してくれたことを振り返りながら、ロータリーの精神を広めるのは米山学友の義務であると力強く訴えました。

当日は同グループ内のロータリアン約200人が参加。米山記念奨学事業に焦点を当てたIMは全国的にも珍しく、ロータリー米山記念奨学会からは齋藤直美理事長が出席しました。

5. 米山学友が新クラブを設立

国際ロータリー第3650地区（韓国・ソウル）で、新クラブ「ソウルブースト코리아RC」が誕生し、昨年12月20日、ソウル市内ホテルにおいて加盟認証状伝達式が開催されました。当日は、創立会員を含む約90人が参加し、新クラブの門出を華々しく祝いました。

ソウルブースト코리아RCの初代会長は、現在、韓国米山学友会会長を務める全炳台さん

（1980-83, 91/仙台北RC）です。もともとロー



タリアンであった全さんが中心となって声を掛け、中小企業経営者、大学教授、弁護士、建築家、医師、芸術家など、さまざまな職業のメンバー32人が創立会員となりました。その中には米山学友の金守基さん（1989-91/大阪西南RC）も含まれています。

全会長はクラブについて、「韓国の最優秀ロータリークラブに成長させたい。また、米山学友をたくさん会員に迎え入れて、日本との交流を活発に展開したい」と、抱負を語っています。